



八中だより



令和6年11月1日 11月号
調布市立第八中学校
校長 馬場 誠

HP : <http://www.chofu-schools.jp/chofu8/>

オックンから新しい時代の生き方を考える

校長 馬場 誠

昨年、漫才教室でお招きしたユーチューバーのオックンを、今年は1年生対象の「職業講話」にお呼びし、素敵な講演をしていただきました。(Youtubeで「お笑いのカで中学生がコミュカUP!大作戦」を検索すると、昨年の様子が分かります。)

今は、ユーチューバーの他に「社会人お笑い協会」を立ち上げたり、本を出版したり、講演会に回ったりと八面六臂の活躍をするオックン(奥山慶久さん)。しかし、学生時代はいじめや強いいじめにあって、不自由を感じていたといいます。「今から思うと、学生のときは外からきたものに反応することで手一杯で、自分が本当にやりたいことはできませんでした。でも、今は大人になって、したいことだけをやれて、本当の自由を手に入れたと思っています。みんなは、大人って辛いことを背負うばかりで嫌だなとイメージすると思うけど、そんなことはありません! 大人って本当に楽しいよ!」

明るい声が響き渡り、生徒の顔が輝きました。また、やりたいことを見つけるには、どんなことでも「やったことがある」体験を積むことが大切。そうして好きなことを見つけたら、そのことをとことん調べて、まずはマネをすることから始めるといいとアドバイスをいただきました。

講演が終わったときには、圧倒的なエネルギーを浴びて、全員が前向きな気持ちになることができました。

私は聞きながら、「これが新しい時代の生き方なんだ」と新たな思いに至りました。

これまでは、いい高校、いい大学、いい会社に就職することが幸せな人生だと教えられ、日本人の誰もが疑わないできました。これは、いわば一つのレールを走る「単線系の生き方」と言っていかもしれません。しかし、時代が進み、若者の幸福は「複線系の生き方」にあるというように変わってきているのではないのでしょうか。まさにオックンはその代表と言えます。

心理学者マズローが提唱する有名な「欲求5段階説」のなかでは、人間にとって最終的な欲求は「自己実現」することだと言います。自分らしくありのままの姿で何かを成し遂げることこそが、人にとって一番の願いだということです。その意味では自分のしたいことに正直に生きる「複線系の生き方」こそ自己実現する生き方だと言えるかもしれません。

ある雑誌の記事に次のような言葉がありました。「グローバル社会が進むなかで、今の子どもたちが将来働くときには、職場で隣にいる人は外国人かもしれません。その外国人にとって、あなたがどこの大学出身かなんてことは興味がありません。国の外から見れば、大学のブランドなんか知らなくて当然、大事なのはあなた自身がどういう人かということです。」

進路指導の根本的な考えを見つめ直す時代になりました。ご家庭でもお子さんとこのことについてお話してみてもいいのではないでしょうか。



講演をするオックン